

## 2.2.2 学生の受け入れ

### 【評価項目 5-0-1】 入学者受け入れ方針等（門戸開放）

（必須要素）他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況

### 【評価項目 5-0-2】 学生募集方法、入学者選抜方法

（必須要素）大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

### 【評価項目 5-0-3】 入学者選抜の仕組み（学内推薦制度）

（必須要素）成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

### 【評価項目 5-0-4】 入学者選抜方法の検証

（必須要素）各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況

（選択要素）入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みの導入状況

### 【評価項目 5-0-6】 「飛び入学」

（必須要素）「飛び入学」制度の運用の適切性

### 【評価項目 5-0-8】 社会人学生の受け入れ

### 【評価項目 5-0-9】 科目等履修生、聴講生等

（選択要素）科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

### 【評価項目 5-0-10】 外国人留学生の受け入れ

（選択要素）外国人留学生の受け入れ状況

（選択要素）留学生の本国地での大学教育、大学前教育の内容・質の認定の上に立った学生受け入れ・単位認定の適切性

### 【評価項目 5-0-11】 定員管理

（必須要素）収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

#### <2003 年度に設定した目標>

大学院問題検討委員会と将来構想委員会における検討を通じて、文学研究科の再編を視野に入れた改革へのたゆまぬ努力を継続する。当面の課題を次の通りとする。

1. 収容定員の確保については、文学部改組を踏まえた大学院の連携のあり方を文学研究科組織の再編を含めて議論する中で、その具体的方途に検討を加える。
2. 大学院入学試験制度の安定的な維持・発展のために検討を継続する。大学院入学試験問題の適切性の検証方法についても併せて議論する。
3. 科目等履修生による科目履修の可能性を検討する。

#### （現状の説明）

大学院入学者の選抜は大学院入学試験を通じて行う。一般入学試験と推薦入学試験の入学試験制度によって正規学生を選抜し、特別学生入学試験制度によって社会人特別学生と外国人特別学生を選抜している。特別学生入学試験で選抜された社会人と外国人の特別学生については、入学後2学期を経過してのち、学修の成果に応じて正規学生への身分変更を可能にする制度を整えている（大学基礎データ表18参照）。

正規学生の一般入学試験制度による選抜においては、前期課程では、他大学、他大学院の学生だけでなく、外国において一定期間の学校教育を修了した者や大学卒業者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者などを、後期課程では、修士学位と同等以上の外国の学位を有する者や修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科にお

いて認められた者などを含め、前期、後期の両課程を通じて優れた学生を受け入れることができるよう、広く門戸を開いている。

＜他大学および他大学院出身者、外国人の学生数比率＞

年度	他大学	他大学院	外国人
2003	3	3	3
2004	5	5	1
2005	9	1	2

なお、いわゆる「飛び入学制度」については、現在のところ実施していない。

前期課程を対象とする推薦入学試験制度を2001年度入試から導入している。この制度では、すぐれた学修成果をもつ本学の文学部学生については第一次入学試験を通じて、すぐれた卒業論文を提出した文学部学生については第二次入学試験を通じて、それぞれ推薦と選抜を行っている。この場合においては、専門外国語の筆記試験と面接を課すことにより選抜の適切性を確保している。後期課程を対象とする推薦入学試験制度では、修士論文を含む優れた研究成果をもち、研究者となるにふさわしい意志と能力を備えた者を推薦および選抜している。この場合においては、選抜は面接の評価に基づいて行っている。

社会人特別学生入試については、卒業または修了資格とともに一定期間以上の社会的経歴を有する者かそれと同等以上の学力と社会的経歴を有する者に、外国人特別学生入試については、外国籍を有して外国で学校教育の必要な課程を修了した者かそれと同等以上の学力を有する者に、それぞれ受験資格を与えている。受験資格の認定は、出願書類の厳密な審査をもとに行っている。

入学試験問題の適切性の確認は、各専攻の教員から構成される出題委員に委ねられており、より大きな組織的枠組みにおいてこれを客観的に検証するための制度は未整備である。

文学研究科の学生定員については、従来、特段の措置を設けることなく安定した定員確保を実現してきた（点検・評価の結果で対応）。

＜収容定員に占める在籍学生数比率推移＞

年度	前期課程	後期課程
2002	1.10	1.48
2003	1.25	1.27
2004	0.91	1.30
2005	0.94	1.27

しかし近年、大学院重点化による国公立大学の定員拡大政策の影響を受けて、私立大学大学院の一般的傾向にもれず、受験生数は逡減傾向にある。これを放置しておけば、入試競争率の低下に伴う水準の低下が懸念されるとともに、さらには定員確保に支障をきたす専攻が生じる可能性があり、そのため文学部改組に連携した大学院の組織再編を検討する中で、あらたな対応を模索する必要性が生じている。

特別学生入試による外国人の入学以外に、交換留学制度による外国人留学生の受け入れについては、大学の制度に基づいて運営がなされている。

聴講生の受け入れは、これを学期ごとに承認する制度を設けている。リカレント教育等生涯学習の重要性に鑑みて、申請書類の厳密な審査と個別の面接を通じた申請者の意欲、能力、適正などの慎重な判断に基づき、研究科委員会の承認を経て許可を出している。

<聴講生数の推移>

年度	春学期	秋学期
2002	13	8
2003	10	10
2004	18	8

なお、本研究科では科目等履修生の制度は備えていない。教員専修免許の取得を目的として関連科目等の履修を望む者が増加している現状から、制度設置の可能性を検討する必要があると考えている。

(点検・評価の結果)

入学試験制度改革については、2003年度を通じて検討を重ねた結果、前期課程・後期課程とも第一次・第二次の入学試験を実施するという受験機会の拡大、および試験科目・試験時間・科目名などの見直しを伴う合理的な入試体系の実現、という新制度を2004年度から実施することにした。

その効果として、2004年度入試（2003年度実施）の前期課程受験者65名は、過去10年間ではもっとも少ない人数であったが、2005年度入試（2004年度実施）では、受験者92名となり、かつての水準に回復することができた。

<前期課程受験者数の推移>

年度	第一次	第二次	計
2003	62	17	79
2004	57	8	65
2005	65	27	92

他方、後期課程の受験者数には大きな変動はない。入学者数については、前期課程および後期課程の両方でおおむね安定した数を確保することができた。外国人特別学生と社会人特別学生の入学者数は少ないものの、制度的には安定した運営がなされていると認められる。

2004年度には大学院問題検討委員会と将来構想委員会の合同委員会計5回の開催を通じて、将来の大学院組織の再編について検討を始める中で、定員とその確保の方法についても議論をしたが、なお意見交換の段階にとどまる。

入学試験問題の検証方法や科目等履修生の問題は、2003年度および2004年度には議論するに至らなかったため、2005年度以降に検討すべき課題と考えている。

(改善の具体的方策)

収容定員の安定的確保と入試制度の恒常的な改善の努力は、検討に着手した文学研究科

の再編計画に強く関連するものであり、2005年度における大学院問題と将来構想委員会による議論を通じて、さらなる改善の努力を模索することになろう。その他の課題についても、文学研究科の再編にかかわるもの、大学全体の方針に関わるもの等、ひとつひとつの位置づけを確認しながら検討を重ねていきたい。